

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	北部地域療育センター	評価対象年度	令和4年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 同愛会 ・代表者名 理事長 高山 和彦 ・住所 横浜市保土ヶ谷区上菅田町金草沢1749	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	通園定員 60名 通園契約児 214名(163名) 診療所利用児数 年間延べ 5,052名(5,465名) リハビリ・検査実施数 年間延べ 5,609名(5,435名) ()内は前年度実績																														
収支実績	<table><tr><td>【収入】</td><td></td><td>【支出】</td><td></td></tr><tr><td>給付費収入</td><td>137,539千円</td><td>人件費</td><td>339,763千円</td></tr><tr><td>医療事業収入</td><td>36,076千円</td><td>事務費</td><td>54,092千円</td></tr><tr><td>指定管理委託料</td><td>268,429千円</td><td>事業費</td><td>19,790千円</td></tr><tr><td>積立金取崩収入</td><td>8,270千円</td><td>事務局経費</td><td>20,925千円</td></tr><tr><td>その他</td><td>9,281千円</td><td>その他</td><td>11,301千円</td></tr><tr><td>合計</td><td>459,596千円</td><td></td><td>445,873千円</td></tr></table> 収支差額 13,723千円 ※千円未満切り上げのため合計に微差あり			【収入】		【支出】		給付費収入	137,539千円	人件費	339,763千円	医療事業収入	36,076千円	事務費	54,092千円	指定管理委託料	268,429千円	事業費	19,790千円	積立金取崩収入	8,270千円	事務局経費	20,925千円	その他	9,281千円	その他	11,301千円	合計	459,596千円		445,873千円
【収入】		【支出】																													
給付費収入	137,539千円	人件費	339,763千円																												
医療事業収入	36,076千円	事務費	54,092千円																												
指定管理委託料	268,429千円	事業費	19,790千円																												
積立金取崩収入	8,270千円	事務局経費	20,925千円																												
その他	9,281千円	その他	11,301千円																												
合計	459,596千円		445,873千円																												
サービス向上の取組	・医療的ケア児会議等を通して、地域支援・心理・リハビリの各部と連携し、医療的ケア児の支援拡充に取り組んだ。 ・第1・第3土曜日に「ほくほく広場」を開催し、施設を誰でも使える遊び場として提供した。保護者の相談、インテークを前にした見学の場としても活用し、子育て支援の場となるよう取り組んだ。 ・重大事故を防ぐ為、ヒヤリハット委員会を実施し全職員の未然防止の意識を高めるとともに、事故及びヒヤリハット報告を集計し、事故原因を明らかにし、対策の立案に役立てた。 ・通園利用保護者との懇談会や保護者へのアンケートを実施し、挙がってきた意見・要望については職員間で話し合いを行い、改善に向け取り組んだ。																														

3. 評価（評価段階:5～1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	3	6
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由) ・医療的ケア児会議等を通して、地域支援・心理・リハビリの各部と連携し、医療的ケア児の支援拡充に取り組んだ。 ・地域における様々な会議等を通して、関係機関との役割・機能に関する相互理解を深め、連携を強化し、地域における療育力の向上に取り組んだ。 ・10月に多摩区で子ども発達・相談センターが開設したことに伴い、業務を整理し、役割分担を行った上、連携を図った。 ・新型コロナウイルス感染症関連の症状のチェックの間診票を作成し、保護者により記入されたものを確認するなど感染防止の対応を行い、施設内でクラスターが発生することなく、運営を継続した。また例年開催している説明会等については、動画を作成し、ホームページで配信を行うなど工夫して実施した。				
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
	(評価の理由) ・収入については、給付費の増加により予算額を上回り、支出については、概ね予算額どおりに執行した。また、法人内部監査室による会計監査や会計監査人による期中・期末会計監査を受けることで、厳格な経理業務の運用を行った。				
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由) ・通園・外来を利用する保護者向けの学習会「ほくほく講座」では、心理やSTなど専門職が講師となり、遊びや子どもへの関わり方、ことばの発達に向けた日常の工夫などをテーマに勉強会を実施し、子育て支援に繋がった。また、ほくほく通信、クラスだより、給食だより、保健だよりを定期的に発信し、子育てに必要な情報を提供した。 ・通園利用保護者との懇談会を各クラスで実施し、実施した内容については、各クラスにフィードバックを行い、個別対応が必要なケースについてはクラス担任が対応した。また、全体的な意見をまとめ、必要な取り組みを実施し、年度末に報告書という形でまとめた内容を掲示した。 ・個々の支援については、担当者、関係者で行う支援会議で方針を決定し必要な支援につなげた。また、個別訓練を行う場合はリハビリ計画、児童発達支援センターを利用する場合は児童発達支援計画を作成し、一人一人の利用者に合った目標を立てて計画的な支援を行った。 ・第三者評価を実施し、外部機関からの調査を受けることでサービスにおける現状分析および課題把握に努め、サービスの向上に取り組んだ。				

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) ・防災委員会を設置し、災害用備蓄の定期的な確認や月1回の頻度で防災訓練を実施するなど、センター全体での防災意識の醸成を図った。 ・職員の資質の向上に対する取組として各種研修(接遇研修、権利擁護に関する研修など)を行った。また、児童発達支援計画に対するモニタリング面談の実施、各関係機関との連携のためのカンファレンス(要体協家族に対する関係機関との連携)の実施、ケースカンファレンスなどにより現状分析や課題把握に努めた。 ・衛生委員会や産業医の巡視を月1回実施し、労働環境などについて状況の確認把握を行うなど適切な職員の労働環境の整備に取り組んだ。また、ヨガ研修(内部研修)を実施するなど職員の健康保持に努めた。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	(評価の理由) ・仕様に準じて定期的な保守点検を実施し、不具合等があれば早期に所管課へ連絡を行い、適切な保全対応を行っている。 ・社会福祉法人なごみ福祉会あゆみサービスへ委託し、日常の清掃業務や定期清掃を行い所内美化に努めている。 ・保守点検や設備・備品の保管や関係ファイル管理、センター全体の消耗品等の発注や補充は総務部、児童発達支援関係の備品や物品、消耗品の管理は通園部、診療所や各専門職については、各専門職で管理することとし、役割分担することで必要量を都度把握し、管理を適切に行なった。				

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			0
	(評価の理由)				

5. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A〜E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満

A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・医療的ケア児会議等を通して、地域支援・心理・リハビリの各部と連携し、医療的ケア児の支援拡充に取り組んだ。
- ・地域の療育力を高めていくため、関係機関と会議等を通して共通理解を深め地域の様々な機関との連携を進めた。
- ・多職種連携の強化及び業務を通じた人材育成を積極的に行い、適切なアセスメントや効果的な支援の実施につなげている。
- ・多摩区に子ども発達・相談支援センターが設立されたことに伴い、業務整理の上、役割分担を行った。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き職員の適切な労働環境および利用児童への良質なサービスの提供の両立に努めること。